

## 株主総会 質疑応答要旨

2022年6月23日(木)開催の当社株主総会における質疑応答の主な要旨は次のとおりです。

質問	回答
1 どのような条件を満たせば配当が可能となるのか。	再生計画に基づくプロジェクト遂行力・リスクマネジメントの強化により、当社は着実に良い方向に向かっている。 今後は、全社一丸となって収益を積み重ね、財務基盤を強固にし、可能な限り早く配当を復活させたいと考えている。
2 A種優先株式に関連して、今回普通株式を増やすということだが、これはどのような意味を持つのか。	発行可能株式総数の設定に際しては、会社法上の定めによりA種優先株式の普通株式への転換を前提に計算する必要がある。この定めと当社定款に則って計算した普通株式の必要数が10億株を超えることに加えて、将来の資金調達手段の多様性・柔軟性を確保するために一定の余裕を設けた結果、今回15億株と設定させていただいた。なお、現時点で増資等の予定があるものではない。
3 LNG 案件について、どのような取り組み方針で受注活動をしているのか。	現在当社が遂行中の大型 LNG 案件は3件(インドネシア、北米、カタール)で、カタールにおいては、3,200万トン、4トレインの巨大なプロジェクトを遂行している。人員には限りがあり、少ない人員での無理な受注は赤字にも繋がるため、全社的なリスクマネジメントを考慮し、受注活動を行っている。まずは現在の手持ち案件を確実に遂行し、収益に結びつけ、将来案件については、リスクを詳細に分析したうえで優良案件への受注活動を行っていく方針である。
4 案件を遂行するにあたり、人財の確保・育成はどのように行っているのか。	人財の確保は当社にとって喫緊の課題であり、様々な取り組みを行っている。①当社社員に加え連結ベースの人財の高度化、②プロジェクト遂行において、最適なパートナー戦略を立て、それにより人財を補強することを目指す、というもの。また、昨年度は外部人財の積極的な活用を行った。
5 プラント操業の最適化ソリューションである EFFXIS について、今後どのような戦略で収益化を図っていくのか。	EFFXIS については、当社として知見が豊富なハイドロカーボン分野からの展開を図ってきたが、今後は、医薬品分野も含めた他の産業への展開も検討しており、従来の分野から水平展開していきたいと考えている。
6 3年前の大きな赤字に関連して、ここ数年間で、若手の離職率が高まっているのではないのか。	足元の、例えば全社員について離職率は約3%であり、離職者数に対して新卒・キャリア採用などで十分な社員数を採用している。いずれも当社の将来に期待し応募いただいております。人財の確保についてはしっかりと対応している。

7	<p>人財が最大の資産である当社にとって、若手の離職率の高まりは大きなリスクであると考え、どのような対策をとっているのか。</p>	<p>大きな施策として、各部門に HRO (Human Resources Officer) を設置のうえ、HRO と全社員との対話を実施し、現在の業務のみならず、将来のキャリアパスについても深いコミュニケーションを行い、社員のモチベーションを保つ取り組みを開始している。</p> <p>若手社員は、キャリア志向であり、転職に抵抗も少ないといったことから労働市場も流動化しており、年齢の高い層と比較して離職率が高いことは、当社のみならず世間全般の傾向とみている。若手社員に対しては、上司がしっかりコミュニケーションをとり、会社に対するエンゲージメントを高めさせるとともに、育成像をきちんと示すことが必要と考えている。更には、やる気の出る仕事、イキイキと働ける職場環境の提供を行っていく。</p>
8	<p>リスク管理にばかり重きを置くと、当社の本来の良さである高い技術力が失われてしまうのではないかと危惧しているが、そのバランスをどう考えているか。</p>	<p>高い技術力を収益に結び付けるためには、リスクマネジメントの強化が非常に有効な方法であることを、全社員が認識しているところである。技術力とリスクマネジメント力の両方が組み合わさって良い会社になるものであり、どちらか一方が強ければ良いということではない。リスクマネジメントの基本動作をきちんと行う中で、高い技術力を持った人財が顧客に対してしっかりとものを言える人財になっていくことが重要であると考えている。</p>
9	<p>ゴールデンパスプロジェクト(アメリカ)の現状について伺いたい。</p>	<p>現在は設計業務が完了、調達業務も概ね完了し、工事に重点が移っているところである。ウクライナ情勢等の影響もあり、今後も予断は許されない状況であるが、顧客・パートナーとの調整をしっかり行い、本案件を成功裏に収めるべく尽力していく。</p>
10	<p>キャメロンプロジェクトでの教訓は、現在のプロジェクトにきちんと活かされているのか。</p>	<p>キャメロンプロジェクトでの教訓として、リスク感度の向上があげられる。この教訓は現在遂行中の大型案件に反映し、プロジェクト遂行力の強化を推進している。</p>
11	<p>ここ数年間、株価の低迷が続いているが、会社として株価対策をどのように考えているのか。</p>	<p>現在は財務基盤がまだ脆弱であることから、まずは遂行中案件でしっかりと利益を積み上げ、純資産を増加させることが必要と考えている。また、世間では 2050 年のカーボンニュートラルに向けた動きが活発化していることから、水素を始めとするカーボンニュートラルに貢献する新たな事業を強化することにより、当社がオイル &amp; ガスのみならず、カーボンニュートラルに大きく貢献する企業であることが認められた際には、株価は必ずや連動して上昇していくと考えている。</p>
12	<p>プライム市場への移行を目指す時期について伺いたい。</p>	<p>現在の財務基盤に鑑み、スタンダード市場を選択している。遂行中案件で収益を積み上げ、安定成長が実現できたときに、プライム市場への申請が見えてくると考えている。</p>

以上